

『社会と調査』への投稿募集

『社会と調査』は年間2号ずつ（3月と9月）刊行しています。一般社団法人社会調査協会『社会と調査』編集委員会では、『社会と調査』の発行に際して投稿論文等を随時、受け付けております。

- ① 社会調査とその分析に関連する原著論文（査読付・2本）
- ② 調査レポート（査読付・3本）

現在、社会調査士の資格を取得されていない方でも、日本社会学会会員・日本教育社会学会会員・日本行動計量学会会員のいずれかであれば投稿可能ですのでふるって投稿ください。

（編集委員長・今田高俊）

投稿規定

1. 本誌は、一般社団法人社会調査協会の機関誌であって、原則として年2回発行する。
2. 投稿は、①社会調査とその分析に関連する原著論文（20000字以内・査読付2本）、②調査レポート（いわゆるレター論文に相当するもので、調査のねらい・実施手順・分析結果を6500字程度にまとめたもの・査読付3本）で、未発表のものに限る。ただし、学会などで口頭発表したものについてはその限りではない。また、他の学会誌などとの二重投稿は認められない。
3. 投稿資格者は、社会調査士・専門社会調査士資格取得者とする。但し当面は、資格を取得していなくても社会調査協会構成学会（日本社会学会・日本教育社会学会・日本行動計量学会）会員であれば投稿可能とする。尚、共著論文においては執筆者全員が投稿資格を満たしていること。
4. 投稿者は、審査用原稿3部を、編集委員会事務局宛に送付する。原稿は、執筆要項にしたがって、ワープロ・ソフトで作成することが望ましい。手書きの場合は、横書き400字詰め原稿用紙にて作成。ただし、いずれも審査用原稿には、執筆者名、所属等は記載しない。
5. 投稿者は、以下の事項を明記した別紙を原稿投稿の際にあわせて編集事務局に提出する。なお、電子メールを使用している場合には、メールアドレスも別紙に明記する。
①氏名（ふりがな）②住所・電話番号③所属・職名（院生等の別）④投稿の種別⑤タイトル
6. 論文の掲載の可否は、編集委員および専門審査委員による審査を経て、編集委員会が決定する。
7. 論文の掲載が認められた投稿者は、指示にしたがって修正したうえ、完成原稿2部と、内容を保存したファイルを、指定した期日までに提出する（メール添付で送付可）。完成原稿には、執筆者名、所属などを記載する。
8. 論文の掲載箇所は、編集委員会が決定する。
9. 期日までに事務局に郵送されなかった原稿は一切受理しない。
10. 本誌に掲載された論文の著作権は社会調査協会に帰属する。
11. 第2項にあるように、学術雑誌などで既に刊行された論文を本誌に投稿することはできない。ただし科学研究費補助金報告書や修士論文、博士論文などパブリシティの低いメディア

に発表した論文やそれに修正を加えた論文を投稿することは可能である。そのような論文を投稿する際には、次の2点に留意されたい。

- 1) 投稿時に編集委員長宛にその旨を連絡すること。
- 2) 論文が受理された場合は、その旨を注などの形で明記すること。

尚、自分の執筆した論文が投稿可能か否か判断しにくい場合は、編集委員会事務局まで問い合わせること。

執筆要項

1. 原稿の分量は原則として以下の限度内とする。
 - 1) 原著論文は、16000字以上20000字以内。
 - 2) 調査レポートは、6200字以上6600字以内。
 2. 原著論文、調査レポートの原稿は、本文（図表を含む）のほか、キャッチフレーズ形式の邦文要約を添付すること。
 - 1) 原稿の第1頁の構成は以下のとおりとする。
 - 1行目 和文題目（全角，中央揃え，副題がある場合は2行にわたることも可）
 - 2行目 英文題目（全角，中央揃え，副題がある場合は2行にわたることも可）
 - 3行目 空白行
 - 4行目 執筆者氏名（右寄せ）
 - 5行目 執筆者氏名の英文表記（半角，右寄せ）
 - 6行目 空白行
 - 1行空白の後，8行目から本文をはじめめる。
 - 2) 邦文要約は150字以内のものを本文の前に添付する。
 - 3) キーワードは、邦語3語にて邦文要約の後に記載する。
 - 4) 「本文」には、見出し、小見出し、注、文献リスト、図表まで含めるとし、これらを合計した文字数が第1項で記した分量におさまらなくてはならない。邦文要約、およびキーワードに使われた文字数については、この制限外とする。
 - 5) 投稿原稿には本文に執筆者名は記さず、執筆者名、住所・電話番号、所属、投稿の種別、タイトルを記した別紙（投稿規定第4項を参照のこと）を添えて提出すること。
 - 6) 文献リストの後1行空けて、論文末尾に、執筆者の所属・身分を（ ）かっこに入れて、右寄せで表記する。電子メールアドレスを入れることもできる。ただし、審査用原稿においてはこれらを空欄とし、完成原稿において記入する。
3. 提出する原稿の書式は以下のとおりとする。
 - 1) 原稿はA4判の用紙を使って40字×40行で印字する。
 - 2) 文体・叙述・表記など
 - ① 項見出し：200字4～6枚に1つ付けることが望ましい。
 - ② 図表：図表は依頼枚数に含む。4分の1ページほどの大きさの図表1つを400字として換算。図表には番号とキャプション、必要に応じて注、出所あるいは原資料名を付すこと。
 - ③ センテンスがあまり長くならないよう、またわかりやすい叙述になるよう、留意すること。
 - ④ 読者は、研究者だけでなく学生や実務家も念頭におき執筆すること。
 - ⑤ 高度なテクニカル・タームは必ず説明を付したうえで使用のこと。
 - ⑥ 副詞・接続詞はなるべくひらがな表記を使用のこと。
 - ⑦ 他著作からの直接引用を多用した叙述は避けること。引用する場合、あるいは大きく準拠される場合は、次のような表記すること。

◎ 引用箇所はカギ「」で囲み、その直後にかっこに入れて出典を明記。表記は書名・論文名、刊行所等を省略した以下のような短縮形を採用する。(著者名 刊行年：引用頁)。

例：和文の場合… (中野 2002：200)

欧文の場合… (Brown & Jackson 1978：277)

翻訳の場合… (Goffman 1961, 訳 1984：86)

⑧ 文献名表記

[邦文単行本]

稲上毅, 1981, 『労使関係の社会学』東京大学出版会。

[邦文論文]

桜井厚, 2003, 「社会調査の困難—問題の所在をめぐって」, 『社会学評論』53(4): 452-470.

松本康, 2002, 「シカゴ学派の都市研究」, 高橋勇悦・菊池美代志・江上渉編『21世紀の都市社会学』学文社：17-30.

[欧文単行本] (翻訳書がある場合はかっこに入れて示すこと)

Bertaux, D., 1997, *Les Récits De Vie : Perspective Ethnosociologique*, Paris : Nathan. (小林多寿子訳, 2003, 『ライフストーリー—エスノ社会学的パースペクティブ』ミネルヴァ書房.)

[欧文論文]

Moss, Scott and Bruce Edmonds, 2005, “Sociology and Simulation: Statistical and Qualitative Cross-Validation”, *American Journal of Sociology*, 110(4): 1095-1131.

⑨ 数字の表記 :位取りのコンマ：本文中は原則として用いない。かわりに、兆・億・万の単位を 挟む (例：12 兆 8637 億 4400 万 6201 円)。数表中では、3 桁ごとにコンマで区切る (例：12,867,344,006,201)。 暦：西暦を原則とする。必要な場合和暦をかっこに入れて併記する。

- 3) 注と文献リストを別にする。参照文献の文中、注における挙示は、著者名 (発行年：頁数)、または (著者名, 発行年：頁数) とする。
- 4) 注は、本文中の該当箇所の右肩に上付文字で順に 1) と番号をうち、注自体は本文の後にまとめて記載する。
- 5) 図表は順に番号をうち、本文中に挿入箇所を指示すること。著作権者の了解を得ることなく、作者の図版を転用してはならない。
- 6) その他
 - ① 改行は段落の前のみにする。
 - ② 2ケタ以上のアラビア数字やアルファベットは半角にする。
 - ③ () 「 」 『 』 などのかっこは全角にする。
 - ④ 上付文字, 下付文字, イタリックなどワープロで表示できないものは原稿上に指示する。
4. 印刷の書式は編集委員会の定めるものとし、原則として著者による責任校正は1回だけ行うこととする。ただしこの際、訂正は形式上のものに限り、論文内容の変更は認めない。
5. その他、不明の点や上の執筆要項に依れない事情のある場合は、編集委員会事務局に相談すること。

投稿原稿送付先および問い合わせ先

〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-18 メゾン鈴博 302

『社会と調査』編集委員会事務局宛

E-mail: imada@valdes.titech.ac.jp & takaku@valdes.titech.ac.jp